

# 東白の松風

公立学校退職校長会東白川支部  
発行責任者 下重康仁  
◆創刊 平成2年8月1日

## 令和4年度を振り返って

支部長 下重康仁



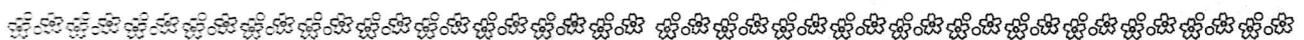
昨年4月16日(土)、3年ぶりに、令和4年度東白川支部総会が、28名のご出席のもと開催されました。懐かしい会員の皆様のお顔を拝見することができ、さらに、ごあいさつを交わすことができたのをうれしく思いました。新型コロナウイルスの第7次の感染流行が一段落したので、総会内容を一部省略して開催することができたのでした。この分では、令和4年度は、計画された事業内容のほとんどが、内容が一部変更になるかもしれないけれど予定通りできるのではないかと喜んでおりました。しかし、第8次、第9次の流行により、現職校長との懇談会、研修旅行の中止など、一堂に会しての事業ができなかったことは残念でなりませんでした。

そんな中でも、賀寿の伝達、「東白の松風」の発行、県退職校長会の「松風」への寄稿など、つつがなく行われました。クラブ活動でも、ゴルフクラブや園芸クラブは、感染防止に気をつけながら実施していることを、良かったなと思います。

また、私自身にとって不安なことがありました。それは、8月の郡内の町村長さん・教育長さんへの要望活動だったのです。その不安とは、『教育に、今何が求められているのか、それに対して教育行政はどう対応しているのか。』など、きちんと自分の言葉でお話しできるだろうか。さらに、各教育長さんに、県本部から届いている要望事項を説明できるのか、などなどでした。そんな不安を吹き飛ばしてくださったのは、各教育長さんが、取り組んでいらっしゃる対応策を、丁寧に説明してくださったことでした。

特に心に残ったことは、2つあります。1つめは、「誰一人も取り残さない」という対策です。研修の充実、加配教員・特別支援教員・SC、SSWの配置やスクールサポートスタッフ等の配置や拡充に尽力されていること。2つめは、ICT環境の充実に努め、一人一人がパソコンやタブレット端末を活用し、情報教育をより質の高いものにしていく活動を進められていること。

今後、マスク着用の緩和を含め、規制が緩やかになることが予定されています。これから計画される令和5年度の本支部の事業が、予定通り実行されることを願っています。



### 【令和5年度総会】

※ 下記のように予定されています。

- 日時 : 4月15日(土) 10:00~12:20
- 場所 : 新富家会館(棚倉町南町 TEL 33-4147)
- 日程 9:30 10:00 10:50 11:00 11:25 11:30 12:20

受付	総会 (50分)	休憩	クラブ打合せ (25分)	移動	茶話会 (50分)
----	-------------	----	-----------------	----	--------------



## ～保育園紹介～ 人間の根っこづくり

棚倉保育園理事長 中 島 一 枝



棚倉保育園の正式名称は、「社会福祉法人棚倉保育園」で、町立ではありません。昭和32年に棚倉キリスト教会信徒総会において保育園施設設備設置を決定し、翌年の4月に宗教法人棚倉協会保育園として発足しました。48年に現在の社会福祉法人棚倉保育園に改名。50年に第二園舎を開園して、二つの園舎で児童の保育にあたってきました。

その後、建物の老朽化と保育のニーズの増加により新園舎の建築が私たちの悲願になり、遂に平成30年4月に両園舎を統合した新園舎での保育が開始されたのです。

保育園の事業内容は、通常保育、乳児保育、障がい児保育、延長保育、子育て支援、一時的保育等があります。児童の保護者または同居の親族が当該児童を保育できないと認められる児童を、生後6か月から預かっています。更に入園にあたって園生活に慣れるために慣らし保育も行っています。

保育園の役割は、逞しく生きていける人間の基礎作り、人間の根っこを育てることです。

「子どもの最善の利益を守り、子どもと共に今を健やかに生きる」という保育理念の下、豊かな環境の中で保育園の役割を十二分に果たすべく日々奮闘しています。

「三つ子の魂百までも」と言われますが、町で進めているキャリア教育の土台の部分を担当していると考えます。本園の保育の実践は、東北大会で発表者に選ばれるなどかなり充実したものと自負しています。

現在は33名の職員で114名の児童を預かっています。コロナ禍の中での保育は非常に難しいものがありますが、園長を始め全職員で最大の注意を払いながら誠心誠意児童や保護者と向き合い、保育にあっていますので、大きな信頼を得ています。

保育士の確保など課題は沢山ありますが、皆様のご支援ご協力を得ながらさらに質の高い保育を目指していきます。



## 令和4年度のボランティア活動報告



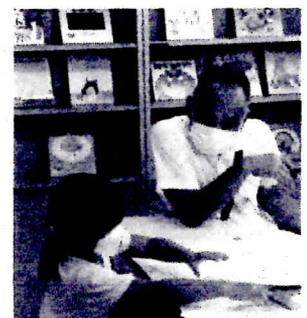
### 「子どもたちとの出会い」

ボランティアバンク担当 矢 吹 政 徳

今年度の活動は、昨年度よりさらに少なくわずか5件、延べ15名となりました。学校からの学習支援要請は皆無になり、各種コンクール審査依頼が主なものです。誠に淋しいものです。子どもたちに会えると現役の頃の元気が甦ってくるように感じます。

子どもたちに出会えたのは、7月の棚倉町子どもセンターでの「夏休みチャレンジ教室」です。「夏休みチャレンジ教室」では、「学習支援」「紙飛行機作り」「風船を使ったゲーム」を行いました。真剣に学習に取り組む姿、メダル獲得を目指して目を輝かせる姿など子どもの良さを改めて認識しました。

早く以前の状況に戻り、多くの子どもたちに接して若さを取り戻したいものです。



<夏休みチャレンジ教室>

## クラブ活動報告

～部員の皆様の活動の様子や想い～

## 【園芸クラブ】

## 園芸クラブ雑感

萩原照夫

コロナ感染が心配される中、マスク着用で6回の活動をする。生方部長さんには、毎回の資料と種・土等の準備からご指導まで大変お世話になった。春先には感染を心配され、お一人で夏野菜の種を蒔き育てていただいた。感謝！

今年は新入会員も加わり16名の部員となる。ご存じのように本クラブは夫婦会員や会員の配偶者も名を連ねている。常時10名以上の参加者があり、資料を基に説明を受ける。協働作業で会話が弾み、和やかに土に親しむ活動となった。

部員は、農作物を作るに十分な畑で耕作したり、庭や空き地を耕し畑にしたり、プランターを利用するなど様々である。また、毎朝生育状態を観察し、水をやり、除草するなど、現職中には考えられない日課になったという部員もいる。

本クラブは、知識と技能をもつ生方先生が入会されて、平成19年に発足した。以来、生産の喜び、食と健康について考え、部員の親睦を図る機会になっている。



## 【ゴルフクラブ】

## 下手の横好き、それがいい

松本市郎

「下手の横好き」のなんと楽しいことか！

下手の横好きとはよく言ったもので、早くもっと上手くなろうとの思いが強いとストレスが溜まってくる。ゴルフはストレス発散にもってこいで、特に秋晴れの日には草原の中で爽やかな空気を思いっきり吸うと正に快適そのもの。夏や冬でもあの広々とした世界に入るとそれなりにストレスも解消し、しかも大勢集まれば知り合いも増え、仲間づくりにはもってこいの「遊び」だ。とっていました。

なのに若い頃は特にOB出そうものならイライラ、ダブってはイライラ、グリーンに乗らなくてはイライラ、パットがカップから遠ざかってはイライラ、終わるとなんと凄い疲れとストレスが溜まっているではありませんか。全く何のためにプレーしているのか分からなくなる時が多々ありました。

でも最近には本当にゴルフが好きになりました。「下手の横好きでいい」し、どう頑張ってもそんなに成長は望めないことがわかった今は、大切な仲間と本当の意味で楽しんでます。ゴルフはいい時はいいし悪い時は悪い、まるで人生ですが、同伴者の迷惑顧みずさらにいっぱい叩いて楽しみます。



## いかがお過ごしですか？

～会員の皆様の生活の様子や想い～

## いのちを預かれば休みなし

奥貫洋

家畜の世話をしている農家の人の話です。愛玩動物なども同じことが言える。けれども教育となると少し違って来る。

家庭の教育力の低下が話題となるが、それは学校の教育力と関連づけて使われてきたようだ。家庭の教育力は狭い意味で「しつけ」として各家庭で行われてきたが、強制力を伴うのが通例であった。幼児や青少年の指導や教育には、そうするのが簡単で、効果がありと考えられてきた。改めて家庭の教育力について私見をまとめてみたが、その中身は幅が広く緩やかでもよいのではないかと思っている。

列記すると次のようになるだろう。

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| ア 何があっても夫婦で話し合える   | イ 簡単に健康を意識した食事が作れる  |
| ウ 子どもの育ちを緩やかに支えられる | エ 近所と適切な距離感をもって付き合う |
| オ 加齢に応じて家族関係を作り変える |                     |

暮らしの中に些少でも楽しみを見出すことができれば、これらは成し得るもので、手抜きしない家庭教育を考えたいものと思う。



## 我が家の庭木

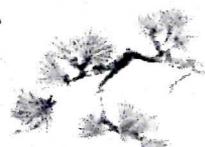
面川春男

年2回の剪定で生け垣の柘植が見事に蘇り通行人に褒めて貰える。

32年前、我が家を建てる時に植栽計画を立て、樹木の種類や配置も自分で決めた。その中で自慢できるのは、22歳の時に秋葉神社で行われていた植木市で購入した当時背丈約1メートルの高野槇で、現在は生長し我が家のシンボルツリーとなっている。以前から樹幹の芯は止めているが、なかなか手は掛かる。

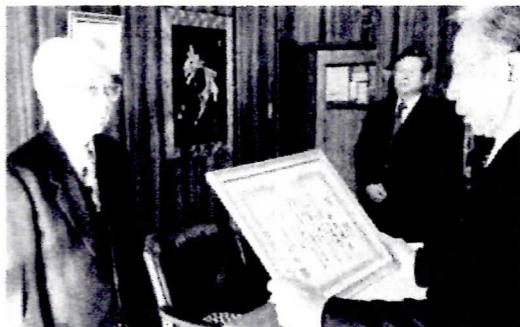
松の木は新築祝いに知人からもらい受けた物である。二本あったのが一昨年松食い虫被害で一本は枯れた。松の木は、金食い樹木と言われるほど手が掛かり、金も掛かる。そこで樹木職人の剪定作業を見て学習することと、学習教材で学ぶことで自力植栽に取り組むことにしたのが14、5年前からだ記憶している。その頃は秋口に年1回の剪定作業を4時間以上掛けて行っていたと思うが、季節柄寒さが身にしみた。3年前からは年2回に剪定を増やして行っているが、特に春の新芽摘みは非常に楽しい。

これが思い通りにできると年間を通して樹形を楽しむことができる。晴裁雨読だ。



白坂瑛先生が賀詞を受けられました。誠にめでとございます。  
賀詞を伝達後、記念撮影を行い、思い出を語っていただきました。

賀詞 <白坂 瑛先生> 88歳 昭和10年1月12日生



一月とは思えない暖かな日差しの中、ご夫婦そろって私たちを迎えてくださいました。

先生は、現在ご自分がやってきたことを地域に還元しようと、ボランティアで塙小学校の音楽クラブへ合奏の指導に行かれたり、地区の老人会の庶務・会計を担ったりと活動されています。また、広い畑を管理し、息子さんが経営するお店に新鮮な無農薬野菜を提供するなど多忙な日々を送られています。

先生の教職生活は、県北の川俣小学校の産休補充から始まり、その後、平田村立小平小学校で正式採用となり、郡内での最初の勤務は、鮫川中学校での音楽担当でした。

教諭時代は、コンクール一筋で児童生徒の指導に明け暮れ、白河一小的時代には、土日もなく指導されたとのこと。そうした指導が実を結び、塙中学校時には、合奏コンクール東北大会に出場できたことを懐かしそうにお話してくださいました。

校長として赴任した内川小学校は、大変協力的なPTAの方々を支えられ、特に「緑の少年団」の様々な活動は、その後の数多くの表彰に繋がったとのことでした。

退職後は、自宅の畑に蕎麦を栽培し、知人の手ほどきを受けながら、蕎麦打ちをマスターしたその腕前は、お孫さんのお墨付きをはじめ、皆様の認めるどころです。最新のパソコンを購入したり、ゴルフで交流したりと好奇心旺盛なお人柄と行動力が若さの秘訣なのでは、という印象をもちました。

これからも手芸を趣味とする奥様とともに、お元気でお過ごしいただきたいと思います。



令和4年度、3回の広報発行に、お忙しい中ご協力いただきまして、大変ありがとうございました。次年度もよろしくお願ひ致します。

(西牧・吉田)